

**2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部**  
**国際コミュニケーション学域 「人文学プロポーズ方式」**

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際コミュニケーション学域	3	2	2

**2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

以下の三点を評価基準とした。

- ①高校までの学習・課外活動に対して努力したことやそこから得たことを説明できる。
- ②受験生のことばで大学での学びを明確に表現できる。
- ③国際コミュニケーション学域において、地域・文化・言語・教育の領域に関連する学びを理解した課題を設定し、展開している。

(2) 解答状況

エントリーシートからはおおむね上記の三点が窺えた。プロポーザルシートについては、③に関する問題意識をもつ具体的なテーマ設定の記述がある受験生と、漠然と大きな内容を扱おうとする受験生の差が際立った。

**3. 第二次選考**

(1) 評価ポイント

第二次選考では、プレゼンテーション（質疑応答含む）と面接を行った。

プレゼンテーションについては、以下の三点を評価基準とした。

- ①プレゼンテーションの内容（研究したいテーマ）が、国際コミュニケーション学域における学びと合致しており、高校生に期待できる基礎的な知識を有している。
- ②プレゼンテーションの内容が、主体的な問題意識に基づき、十分な準備や分析がなされている。
- ③研究内容を英語で正確に伝えることができる。

面接については、以下の三点を評価基準とした。

- ①高校までの学習・課外活動に対して努力したことやそこから得たことを説明できる。
- ②国際コミュニケーション学域を志望する理由と、入学後に計画している学びとが結び付けられる。
- ③国際コミュニケーション学域での学びを卒業後のキャリアにどう活かしていきたいの

かが具体的に考えられている。

## (2) 解答状況

プレゼンテーションについては十分な準備ができていた。適宜スライドを用いて、洞察に富み、かつ分かりやすい発表が行えていた。

面接については、面接者の質問に対して概して答えることができた。プレゼンテーションの内容だけでなく、高校生活についての質問もあったが、適格に受け答えをすることが出来ていた。

## (3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

プレゼンテーションでは、「入学後に探求したいテーマと具体的な内容」を中心に「学習・活動計画」を10分程度でまとめ、発表した。その後、内容についての質疑応答を行った。面接では、高校までの学習や活動、大学進学後の学び、卒業後の目標や将来のビジョンなどについて幅広く質問した。適宜、プレゼンテーションについての補足質問も行った。

## (4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

プレゼンテーションでは、大学で学ぶための基礎的な知識や研究したいテーマの内容と準備状況、課題や大学での学びに対する意欲と計画性、国際コミュニケーション学域での学びについての理解の程度などを確認した。面接では、学習意欲と将来計画の具体性などを確認した。

## (5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

自分が国際コミュニケーション学域で何を学びたいのか、そのために今、なにをするのか、を具体的に伝えてほしい。プレゼンテーションでは、自分の考えが伝わるように工夫し、いかに自分自身の考えが独自であるかを主張することが望ましい。面接でも自分を的確に表現することが重要となる。また英語による質問に対しても、同様に対応する必要がある。

以上